

「ある日の事」 渡辺 禮子様
感動介護を行った職員
株式会社サロンデイ
サロンデイ東海大駅前 長田弥己様

今日はサロンデイに行く日です。まだ外は薄暗く、時計を見上げれば4時を指しています。こんなに朝方から一日の始まり。体がこわばり、動かないので、時間をかけて、ゆっくり動かしながらサロンデイに行く準備です。楽をしていると体が動き辛くなるパーキンソン病。何事も継続は力なりと思い、続けています。

送迎車でサロンデイに着き、所長さんのお話からデイが始まりました。

時間が進み、指導員の長田さんに手を添えてもらって歩く練習の時でした。緊張と不安で、どうしても足が動かず、涙が出てきて、とても恥ずかしい思いをしました。そんな私を、長田さんが優しく励まし、「急がないで。待ってますからね。」と、声をかけてくれました。

気がつくやうに、他のスタッフさんも、看護師さんも、笑顔で見守ってくれました。自分が情けなく、心の中で（明日から、もうサロンデイは辞めよう）と思う程でしたが、気持ちの「支え」があると、強く感じました。

自分の足でいつまでも歩きたい。一つの目標です。

指導員の長田さんをはじめ、サロンデイのスタッフさんに、有り難うと云える私で有りたいと思います。年を重ねて、自分が情けなくなる事もありますが、一日も長くそして笑顔でサロンデイに行けるように。

これからも、朝4時から準備をして、サロンデイの車を待つ私でいます。